

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 茨城県教育研修センター
コラボ研修プログラム	事業名：高等学校授業ブラッシュアップ研修
支援事業報告書	研修等名：【NITS・茨城県教育研修センターコラボ研修】 高等学校授業ブラッシュアップ研修 ～サブスク型継続研修で授業改善～
	開催日時：令和4年9月から令和5年2月（実施日は、各学校による） 開催場所：オンラインによる実施 参加人数（総数）と参加者の属性：（約18人）：那珂湊高校約7人、岩瀬高校約6人、江戸崎総合高校約3人、つくば工科高校約2人

### 内容

茨城県内高等学校4校（茨城県立那珂湊高等学校、茨城県立岩瀬高等学校、茨城県立江戸崎総合高等学校、茨城県立つくば工科高等学校）での、6か月間のサブスク型継続研修を行った。（研修会の日程は、講師と各学校で調整して実施した。）

まず、各学校とも講師の小林昭文氏とコアメンバー（各学校数名程度）との打ち合わせを、管理職を交えて行った。ここでは、学校の教育目標や生徒の状況等を確認した後、現時点での授業について、課題や改善点の方向性を協議した。最後に今後の進め方を確認した。

研修会の主な内容は、以下の通りである。

#### ① 授業についての質疑応答

授業を実践するにあたって、講師と改善策の具体について質疑応答を行った。その際には、事前に講師作成の動画を視聴したり、スプレッドシートに疑問点を書き込んだりしながら、効率的に研修を進めた。授業を改善するにあたって、クラス担任としての支援の在り方へも内容が波及した。

#### ② 授業動画をもとにした振り返り会

授業は、リアルでの参観ではなく、Zoomの録画機能を用いて撮影を行い、これをもとに協議を行った。授業者のコメント（質問、意図、気付き等）に対して、講師や参観者が事前により点や質問、意見等を入力し、授業を振り返った。

### 成果

複数の教科担当からなるコアチームを作成して、継続的な研修を行った結果、学校での共通の課題を共有し、実践・省察・改善のサイクルを複数回行うことができた。以下、参加者の感想である。

- ・コアチームメンバーが授業やクラス運営などの不安や課題を共有する機会ができ、前向きな対応を考えることができた。また、授業の基本パターンや基本スキルなどすぐに誰でも取り組めることを教えていただき大変参考になった。
- ・授業改善のために必要なことを改めて振り返る機会となり、生徒が学校に来る意味や学ぶ意義を問い直す必要性を感じた。
- ・研修の形式も内容も教科を問わないものであったため、他教科の同僚と授業改善について協議するよい機会となった。
- ・新しい視点での授業の在り方について知ることができ、生徒の主体的な学びを促すような授業実践ができた。また、授業動画を用いての研修会は大変効果的であった。

### アイデアや工夫したこと

- ・1回限りの研修会ではなく、定期的な継続研修会を実施したことにより、授業の実施から振り返り、新たな試みまでのサイクルを複数回行えるようにした。
- ・学校内の全教員参加の形ではなく、数名程度によるコアチームを作成し、このメンバーによる研修会とした。意思や予定の統一を図るのが比較的容易で、研修会の様子は、他の教員も後日視聴できるようにした。
- ・授業は動画撮影を行い、これを用いながら協議した。コメントを入力できるアプリケーションを用いることにより、時間を有効に活用して振り返り会を行うことができた。
- ・講師とは、すべてオンラインでの研修としたことにより、予定の調整がスムーズであった。

<写真・図など>

○各学校と講師との質疑応答の様子：各学校とも数名のコアチームを作り、授業改善について講師とやりとりを行った。



○授業動画をもとにした振り返り会の様子：授業を動画で撮影し、講師とともに振り返りを行い、授業改善について協議した。（写真下段は、コメント機能のあるアプリケーションを用いた振り返り会の様子）

